



学校だより

黄 菊

学校評価号

令和6年1月31日
立川市立第七小学校
校長 島村 雄次郎

《本校の教育信条》『我等は人間 よき人間でありたい』武者小路 実篤先生より

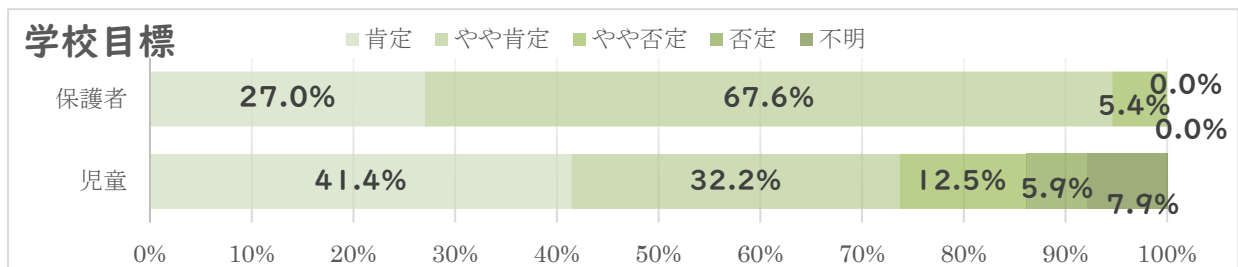
学校評価まとめ

2学期に行わせていただいた学校評価について、結果を掲載します。

アンケートでお答えいただいたご意見を加味し、保護者とともに子どもたちの心身の成長を目指す学校として、取り組んでまいります。

ご協力ありがとうございました。

※ 分析に掲載した児童と保護者の数値は、肯定評価（よい、おおむねよい）の合算値

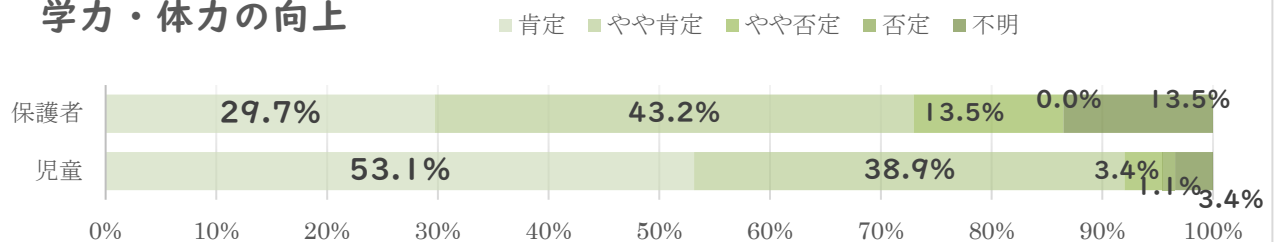


< 保護者 94% / 児童 73.6% >

学校目標の周知については、昨年度と比べると大きく変動した。保護者の校庭評価が12%上昇したが、児童の肯定的な評価は11%も下げている。

各教室への掲示だけでなく、保護者については、学校だよりなどで、何を目標として指導するのかを繰り返し説いてきた結果だと思われる。児童についてはより分かりやすい言葉で、くり返し七小の目標を伝えていくことで、行動の指針となるようにしていく必要がある。

学力・体力の向上



< 保護者 72.9% / 児童 92% >

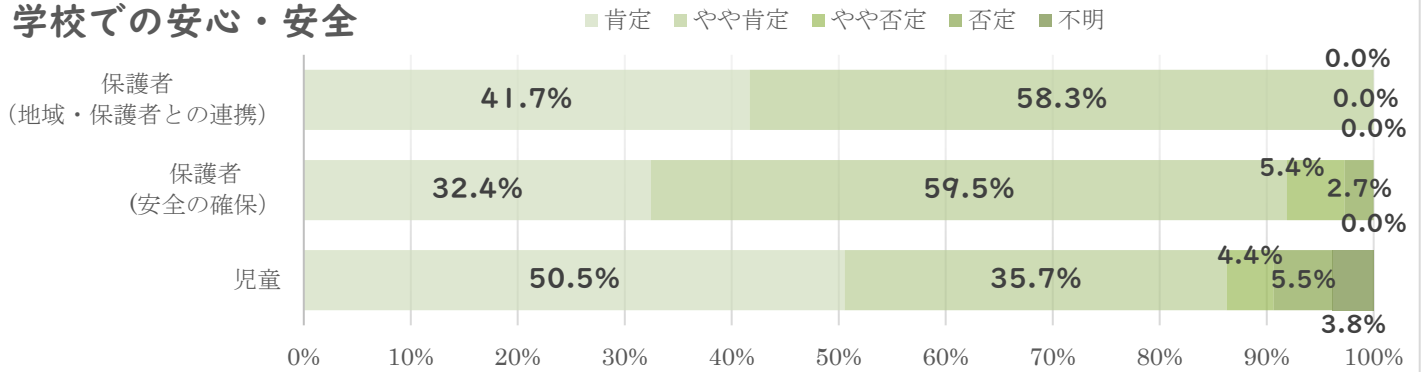
昨年同様、児童では非常に高い肯定の数字が出ている。

学力や体力向上へむけての取り組みについて、概ね満足をしているのではないかと考える。しかし保護者については前年度と比べて23%下げている。

学力向上については、全国学力調査やベネッセの学力調査では大きく伸長がみられる。学校として基礎基本を安定させるとともに、取り組みや成果を伝えるようにしたい。

体力の向上については、体力テストの結果を見るとシャトルラン（持久力）・上体おこし（筋力）が弱い傾向がはっきりしているので、体育の授業だけでなく、集会などを活用しながら、より様々な動きに取り組みせ、体力の向上を目指していく。

学校での安心・安全

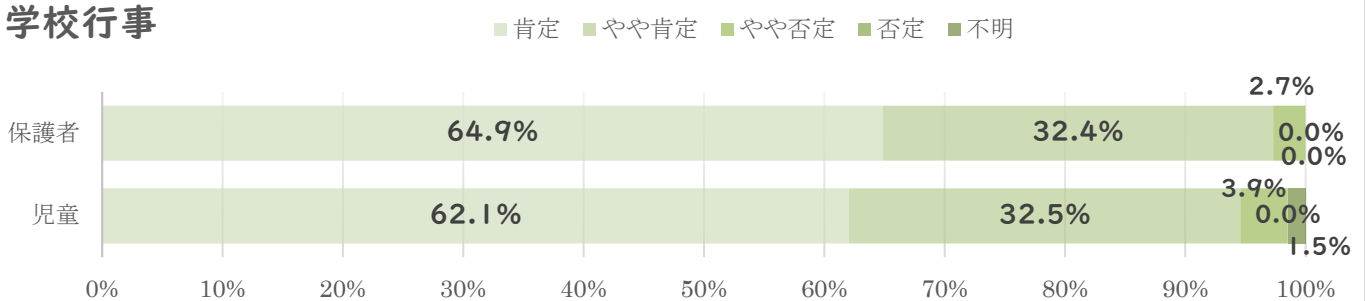


<保護者 (連携) 100% / (安全確保) 92% / 児童 86.2%>

昨年度同様、高い肯定の数字が出ている。単学級の学校ではあるが、ことばの教室や特別支援教室キラリの拠点校となっているため、児童一人あたりに対する大人の数が非常に多い。常に児童の様子に気を配り、目が行き届いていることが原因ではないかと思われる。また、地域の協力も多く得られることもあり、地域の方々や保護者の目が届いていることも起因しているものと考えられる。

引き続き、子どもたちが安心して登校でき、安全に過ごせるよう学校体制を整えていきたい。

学校行事

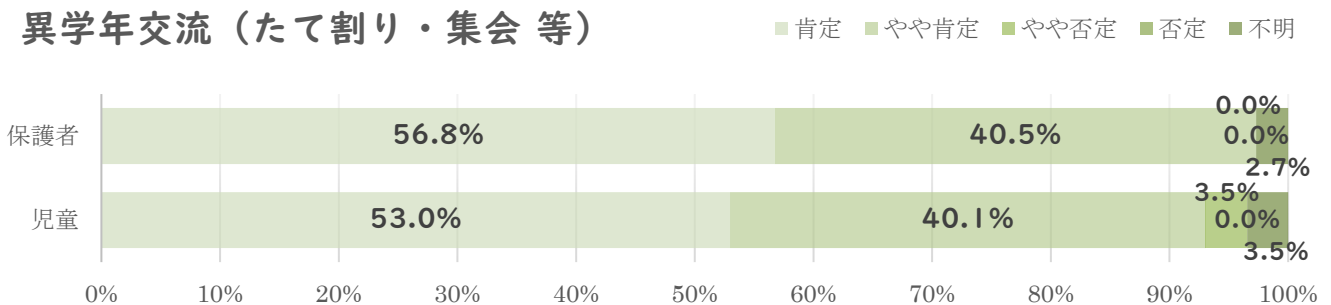


<保護者 97.3% / 児童 95.6%>

非常に高い肯定の数字が出ている。昨年度から状況を見ながら、児童の活動を増やしてきたことが起因していると思われる。各学年の社会科見学だけでなく、全校遠足や一年生を迎える会など全体の活動を積極的にを行い、運動会や学習発表会でも制限をかけずに保護者にも参観していただいた。

本年度から、より深い学びの発表を目指すため学習発表会を実施したが、保護者や地域からも多くの良いご意見をいただいた。引き続き、児童の安全を確保しつつ、児童の活動を増やしていきたい。また、保護者にも子どもたちの成長を見ていただけるように適宜対応していく。

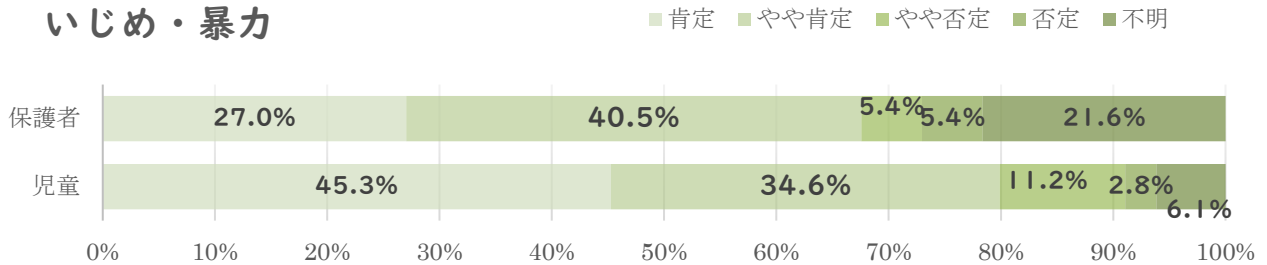
異学年交流 (たて割り・集会等)



<保護者 97.3% / 児童 93.1%>

非常に高い肯定の数字が出ている。小規模校の特性を生かし、上級生が下級生の世話をすることが自然にできる。昨年度から状況を見ながら、児童の活動を増やしてきており、次年度も児童の安全や健康に配慮しながら、積極的に交流活動を取り入れていきたい。

いじめ・暴力

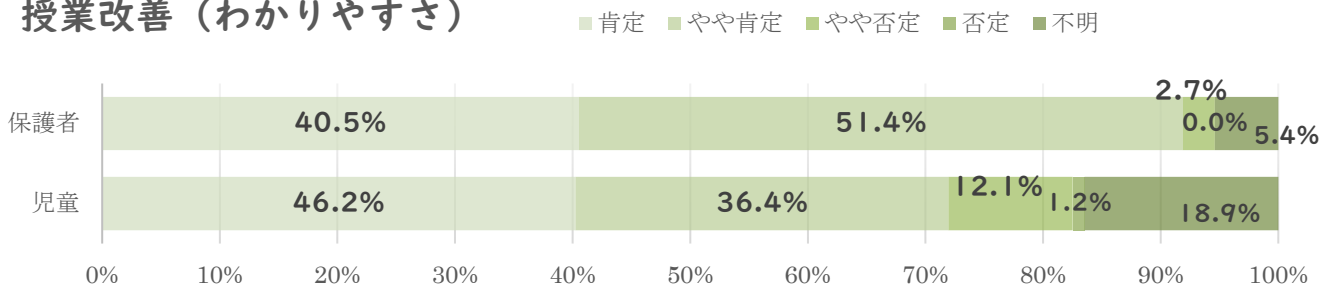


< 保護者 67.5% / 児童 80% >

いじめ・暴力については、昨年度と比べて肯定的な評価が減っている。児童の数値は3%の微減、保護者については11%肯定の数値が下がっている。また、保護者についてはわからないと答えた保護者が21.6%いることから、学校での様子が伝わっていない懸念がある。

表立った保護者からの訴えは、昨年度に比べると減っているが、アンケートでの数値が下がっていることから、潜在的な不満度が高まっていると考えられる。教員間で情報を共有し、早めに対応をするように心がけをするだけでなく、管理職を交えて保護者とも連携を取り、学級担任だけでなく、生活指導部を中心に学校全体で当たっていききたい。また、その取り組みを保護者に適宜伝える機会をもつようにしたい。

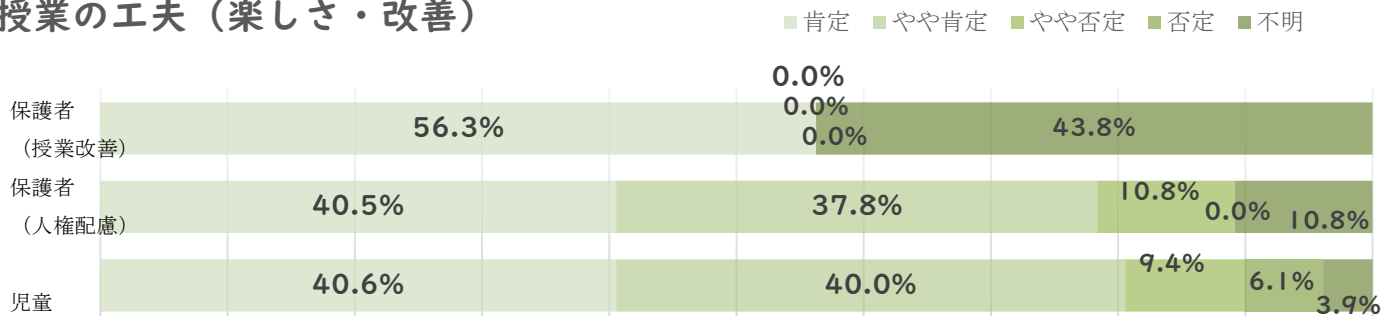
授業改善（わかりやすさ）



< 保護者 91.9% / 児童 82.6% >

児童へのわかりやすさは、昨年度同様80%を超えており、高い評価が出ているが、保護者からの「授業がわかりやすい」では肯定評価が92%と昨年度と比べて34%もあがっている。各担当がわかりやすい授業をしていることが学校だよりや、学年便り、HPから、伝わっているのではないかと考える。また、タブレットによる学習や宿題も学習状況の進捗を家庭で見ることができ、わかりやすい授業の様子が伝わったのではないかと考える。引き続き、ユニバーサルデザインに基づいたわかりやすい授業を目指して、次年度の授業改善を行っていききたい。

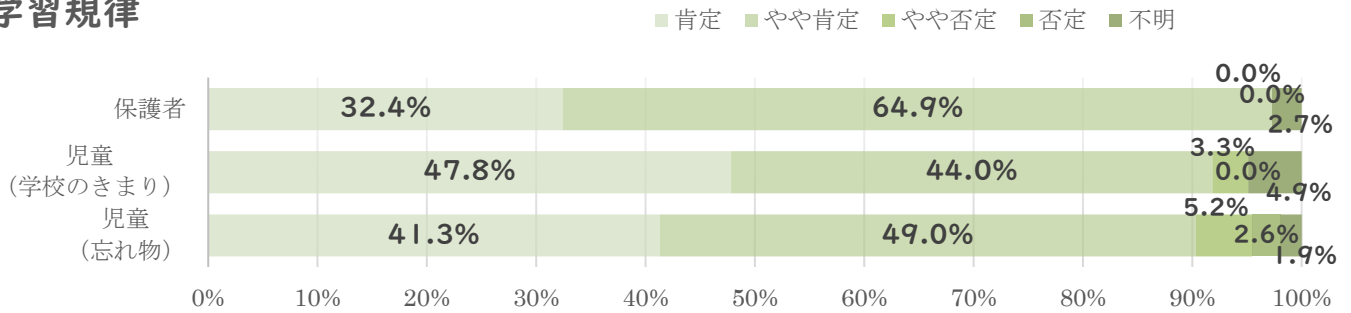
授業の工夫（楽しさ・改善）



< 保護者 (人権) 78.3% / (授業改善) 56.3% / 児童 80.6% >

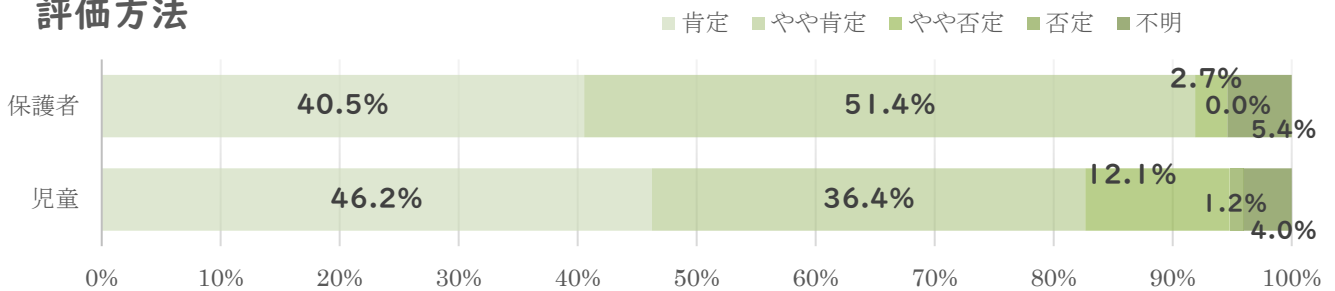
児童が楽しいと感じているかは数値が4%の微増であった。しかし、授業改善については保護者から56%と低い数値が出ているとともに、わからないと答えている保護者が44%もいるため、指導改善について伝わっていないと思われる。実績として、学力調査等でも数値がしっかりとクラス平均や学力低位層の底上げができていることから、改善や調査の結果を意図的に伝えられるようにしたい。引き続き、どの子どもも楽しめわかる授業を目指して、次年度の授業改善を行っていききたい。

学習規律



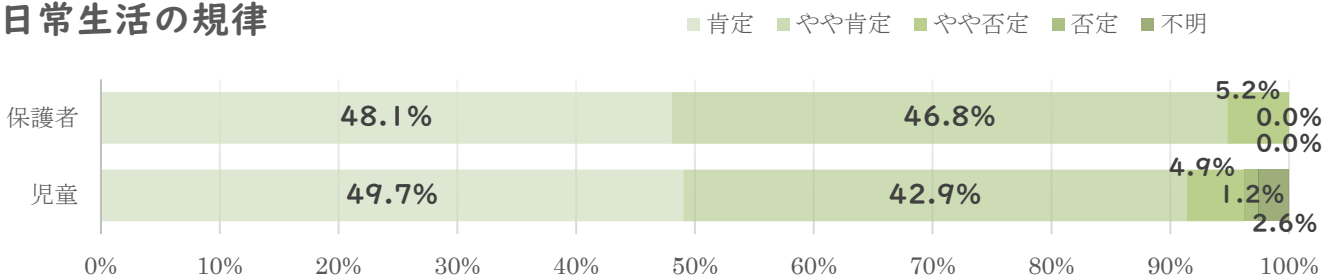
< 保護者 97.3% / 児童(きまり) 91.8% / 児童(持ち物) 90.3% >
 高い肯定の数字が出ている。学習規律については、しっかりと身につけてきていることがわかる。
 しかし、持ち物をそろえるなど学習の準備はもう少し努力が必要な子もいる。各学級の学習の準備や
 専科の持ち物などしっかりと揃えられるように、指導をしていきたい。

評価方法



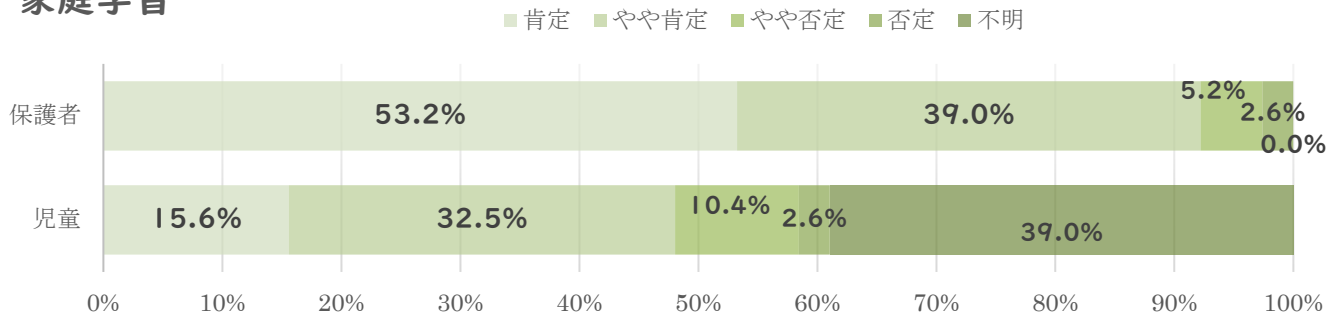
< 保護者 91.9% / 児童 82.8% >
 高い肯定の数字が出ている。特に保護者の方が高い値が出ており、今年度、保護者会や学年便りとして
 評価方法を保護者に伝えるようにしている成果が出ている。しかし、児童については、良く伝わっていない
 児童もいるので、クラスでの評価の仕方をしっかりと伝えるようにしていく。

日常生活の規律



< 保護者 94.9% / 児童 91.6% >
 高い肯定の数字が出ている。特に保護者の方が高い値が出ており、日ごろ各ご家庭でしっかりと子供た
 ちの生活を見守っていただけている成果がでていいる。ただし、児童によっては生活の乱れがあり、見守り
 が必要な家庭があるため、引き続き見守っていききたい。

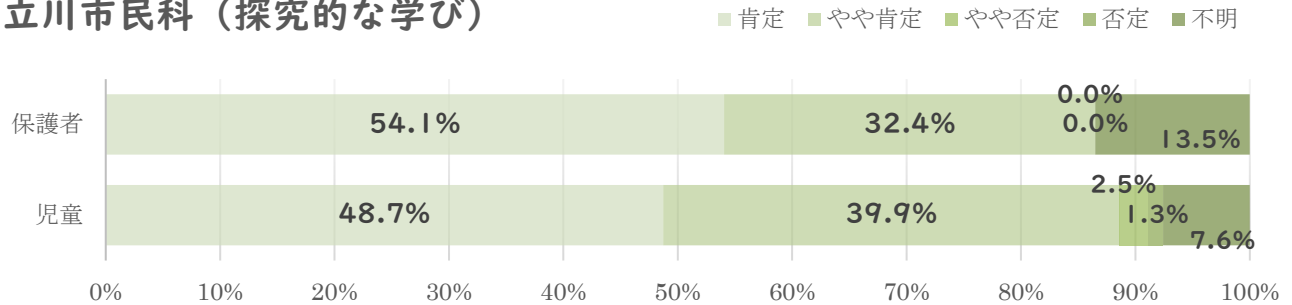
家庭学習



< 保護者 92.2% / 児童 48.1% >

保護者の結果は、昨年度から引き続き大変高い。しかし、児童については、前年度の89%から41%大きく下がっている。また、不明としている児童も39%となっている。どの宿題をしているかをわかるようにし、一人で学びを進めることが難しい児童にも家庭学習のさせ方を工夫していく必要がある。さらに学力を向上させていくためには家庭での学習が必要不可欠となるので、個に適応して、学びを深められるように課題の工夫をしていきたい。

立川市民科（探究的な学び）

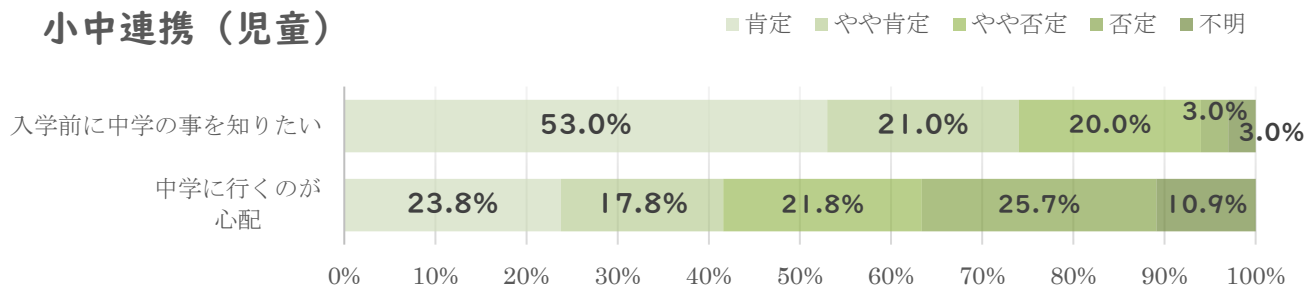


< 保護者 86.5% / 児童 88.6% >

児童は3年生以上に質問している。全体として、高い肯定の数字が出ている。

市民科で地域の人が多く関わり、実際に触ったり、話を伺ったり、して体験からの学習を進めている。その活動の中で、楽しみ意欲的に学んでいると思われる。それぞれの学年で、知ったことや体験したことを中心に、課題を見付け、解決していこうという意欲がみられる。今後も、地域について探究していけるように、学びを進め、市民科のより良いカリキュラムを構築していく。

小中連携（児童）

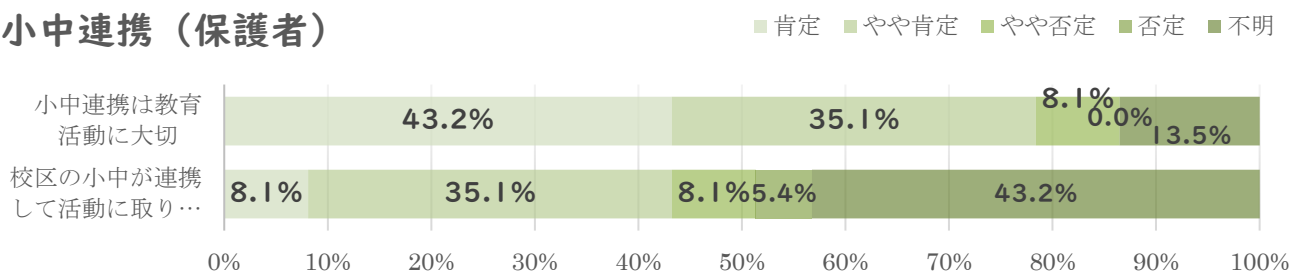


中学に行くのが心配 <心配：40.6% / 心配ではない：47.5%>
 入学前に中学の事を知りたい 74%

3年生以上にアンケートを取っている。

中学に行くことが、「心配である」と答えている子が「心配ではない」と答える子より7%少ない。双方40%台の同じような割合である。しかし、中学校のことを知りたいと思う児童は7割を超えている。感染症対策以降、中学校との交流がほぼないため、中学校生活への具体的な像が浮かばないのではないかと考える。中学校生活について興味関心をもてるように、より連携を深めていく

小中連携（保護者）



小中連携活動の大切さ 78.3%
 校区で連携している 43.2%

保護者の意見の中では、小中連携教育での取り組みは重要であると理解していただいていることはわかる。しかし、校区の教育活動の連携が43.2%と非常に低く、「わからない」と答えた割合も半数近い43.2%となっている。

このことから、校区での連携活動があまり伝わっていないことがわかる。これは、コロナ禍以降で連携の活動が減り、児童や生徒との連携活動が見られなくなったことが関係すると思われる。また、昨年度と異なり、三中生が職場体験を行ってその後、運動会を手伝ってくれるような中学生との交流を目にする活動があれば、わかりやすく数値は伸びるのではないかと考える。引き続き、校区で連携しながら、学習活動を行い、より良い連携活動を目指していく。